

委託

KOGEI GENE 育成プロジェクト (実施団体:株式会社 東京美術倶楽部)

目的・目標

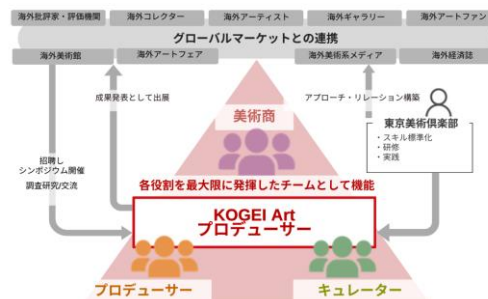
本事業では、日本の古美術・工芸を国際社会に橋渡しできる「KOGEI Artプロデューサー」の育成プログラムを創設。国内外の美術館・アートフェア・企業・行政等と連携し、海外のニーズ調査や国際交流を行いながら、優れた工芸の価値を新たな市場へ翻訳・発信する視点を養う実践的カリキュラムを提供する。育成過程と成果を広く社会に還元する。本事業で育成支援した人材が世界の美術市場で日本工芸の価値を適切に伝達・流通させ、国内の工芸産業全体の国際的地位向上に寄与する。

概要

本事業は、日本の古美術・工芸の価値を国際市場に翻訳・発信できる「KOGEI Artプロデューサー」育成プログラムを開発。国内外の教育機関・文化機関・アートフェアと連携し、実践的な研修や海外展開を通じて国際的な人材を育成。育成対象者は、地域産業や企業と協働し、成果展を通じて文化と経済を結びつけ、インバウンド促進を推進するなど、東京・大阪・京都・名古屋・金沢へ展開可能なスケーラブルなモデルとして、文化産業の国際化に資することを旨とする。

3年目までの取組

初年度は、講師陣の選定、育成カリキュラムを設計し、11月に育成対象者の募集と事業のPRを目的とした展覧会を京都にて開催。また2026年3月に1名の育成対象者を「TEFAF Curator Course」に派遣及び、2年目以降の連携交渉のため視察。
2年目は、5月に国内外の美術館関係者を招聘し国際シンポジウムを開催。6月より講師による分野別セミナーを通じ、国際市場の知見を高める。11月には成果シンポジウム及び実践展示を行い、2027年3月には育成対象者がTEFAFを視察し、TEFAF関係者による研修を受講する。3年目は、月一回の分野別セミナーを開催し、11月に国内での実践成果展を開催し、2028年3月に「TEFAF」での公認成果展を実施する。



5年目までの取組

- 令和10年度における本格的なビジネスモデル転換と、育成プログラムの社会実装に向けて、段階的に育成プログラム改良・改善。育成カリキュラムの反復的な改良改善する。
- ・ビジネスモデルのピボットにより持続可能性を最大化
 - ・本育成事業とプロデューサー派遣を検証
 - ・コレクター／企業CSR／行政などと連携年に1回「成果展」開催
 - ・育成＋マッチングプラットフォーム稼働
 - ・アジア圏との国際連携（韓国・香港・シンガポール）越境流動の実現

中核となる指導者等

秋元 雄史 (東京藝術大学名誉教授) / 大林 剛郎 (株式会社大林組代表取締役会長) / 山口 桂 (クリスティーズ・ジャパン代表取締役社長) / 廣安ゆきみ (READYFOR文化部門長) / アンダーソンみかり (元LVMH エミリオプッチ GM) / ほか



(区分・分野)

・デザイン・分野横断的新領域

(対象となる職種)

・プロデューサー、キュレーター、ディーラー

(育成人数)

・10名 / 3年

成果目標	目標値
コンテンツ創造・海外展開のための実践的な育成プログラムの開発・実装数	3年目：66件 5年目：81件
国内外の教育機関・専門機関・企業・団体等との連携数	3年目：34件 5年目：50件
育成プログラムの参加者が世界的に認知されている海外の芸術祭・文化施設等へ出品・参画し高い評価を受けた件数	3年目：4件 5年目：6件
育成プログラムの実証に参加した人数	3年目：10件 5年目：20件

国際的な場での実践の取組例

- ・TEFAF 於：オランダ マーストリヒト (1年目3月、2年目3月、3年目3月)
- 【1年目】TEFAFとマーストリヒト大学が共同で開催する「TEFAF Curator Course」に1名の育成対象者を派遣。
- 【2年目】同カリキュラムを応用したプログラムを開発。
- 【3年目】「TEFAF」公認の成果展を実施する。



実施体制

事務局

東京美術倶楽部

代表取締役社長：中村 純

事業全体戦略及び部門会議を定期的に行い、専門性を備えたアドバイザーや講師を選定し、多様な観点からの意見集約を行う。

事務局補佐：

ユニバーサルアドネットワーク株式会社

ディレクター：川上 尚志

グローバルディレクター：李 美香

- ①事業全体の統括、事業推進、進捗管理、予算管理、連携先調整
- ②育成対象者マネジメント、講座や実地研修の日程調整、会場手配、教材準備
- ③国内外の外部連携（教育機関、業界団体、展覧会主催者）とのネットワーク構築、契約や交渉、打合せの実施と記録管理、資料の翻訳や配布、公式発表の準備
- ④プレスリリースやSNS等を活用した国内外メディアへの情報発信
- ⑤長期的運営を視野に入れたスキームの検討、財務運営基盤の整備、データ管理体制の構築（参加者情報、進捗記録、外部関係者一覧など）

選定

【シンポジウム登壇者】プログラムへの助言、アドバイザー

ルパート・フォークナー氏（ヴィクトリア&アルバート美術館名誉上席研究員）
モニカ・ビンチク氏（メトロポリタン美術館）
青柳 正規（学校法人多摩美術大学理事長）
岩井美恵子氏（国立工芸館工芸課長）モデレーター

連携

国内連携機関

協力機関連携数：23団体
美術倶楽部・美術館・大学
・企業・地元行政など

海外連携機関



TEFAFなど計11団体
アートフェア・美術館
文化財団など

育成対象者



KOGEIGENE

ディーラー枠

- 全美連または五都美術商連合会に加盟する美術商・画廊・ギャラリーで現場経験が3年以上の現職者

プロデューサー枠

- 文化・デザイン・メディア・事業開発など関連分野で3年以上の実務経験、継続的な活動実績を有する者

キュレーター枠

- 視覚芸術分野に関わるキュレーターで3年以上の実務経験、または継続的な活動実績を有するもの

選定

選定

指導

【中核となる指導者】アドバイザー及びセミナー講師

秋元 雄史（東京藝術大名誉教授・金沢21世紀美術館特任館長）
大林 剛郎（株式会社大林組代表取締役会長）
山口 桂（クリスティーズ・ジャパン代表取締役社長）
廣安ゆきみ（READYFOR文化部門長）
アンダーソンみかり（元LVMH エミリオプッチ ゼネラルマネージャー）